

# あそぼう！のりくら！～森のたんけん～

## 1. 事業の概要・目的

### (1) 概要

親子遠足や森体験を中心にのりくらの大自然を思い切り楽しむことができる。「こどもの森」と称して今年度8つのアクティビティー遊具を開発・設置した。森の中にコンパクトなアクティビティー遊具を設置することでこどもが自ら興味のある遊びを選び、次々と遊びに熱中することができる。また、保護者や保育士も「こどもの森」の空間で一緒に遊んだり見守ったりしながら子どもの楽しむ様子を観ることができる。

発見→喜び→知りたい→知る→わかる



→試したい→試す→できる



さらなる意欲へ！！

#### ①ハンモック

木陰の中でゆらゆら揺られ



#### ②ロープ渡り

不安定なロープの上を歩く



#### ③丸太渡り

丸太から落ちないように渡る



#### ④ブランコ

木枝を使って空中ブランコ



#### ⑤ターザンロープ

ロープに捕まりターザン



#### ⑥一本橋

丸太の上を落ちないように歩く



#### ⑦クモの巣

クモの巣に捕まらないで抜ける



#### ⑧ロープ登り

ロープを使って木登り挑戦



【こどもの森】あそび！×身体機能×体力UP  
あそび！×自然環境×心の開放  
あそび！×仲間×挑戦×協力×創造

### (2) 目的

- ◎自然物を活用し、多様な遊びを創出する。
- ◎多様な自然環境の中で、豊かな感性を育む。
- ◎自然の中で、様々な事象に直接触れ、たくさん体を動かして遊ぶ。

### (3) 対象

- 【国府保育園】園児48名 保育士：6名 保護者：56名
- 【宮保育園】園児：27名 保育士：4名 保護者：27名
- 【山王・城山・岡本保育園】園児：56名 保育士：9名

## 2. 活動内容

### 【令和元年10月7日：国府保育園（親子遠足）プログラム例】

	9:30	9:45	11:45	12:00	13:00	14:30	14:40
園児	アイスブレイク	キャンプ場へ移動 ①こどもの森 ②乗鞍探検コース	振り返り	昼食	キャンプ場へ移動 ③モンタージュ ④カモフラージュ	振り返り	交流の家出発
保育士 保護者		見守り支援 家族で遊ぶ又は見守り支援			見守り支援 家族で遊ぶ又は見守り支援		

- \*①こどもの森…キャンプ場にあるアクティビティー遊具を使って遊ぶ。
- \*②乗鞍探検コース…森の中を親子で歩き、ビンゴカードに書いてある課題や自然物を見つける。
- \*③モンタージュ…落ち葉や枝など自然物を使って両親や保育士の顔を作って表現する。
- \*④カモフラージュ…自然物の中に周囲の風景に溶けこむように人工物を隠しそれを見つける。

**\*②～③は各保育園独自に行うことができる。**

### 3. 体験活動の展開とポイント

繰り返し体験  
することで

日常生活の中で身近な自然  
体験活動につながっていく

#### 【自然環境】

乗鞍でしか見られない景色  
乗鞍でしか感じることができない  
環境が心と体を開放する

#### こどもの森

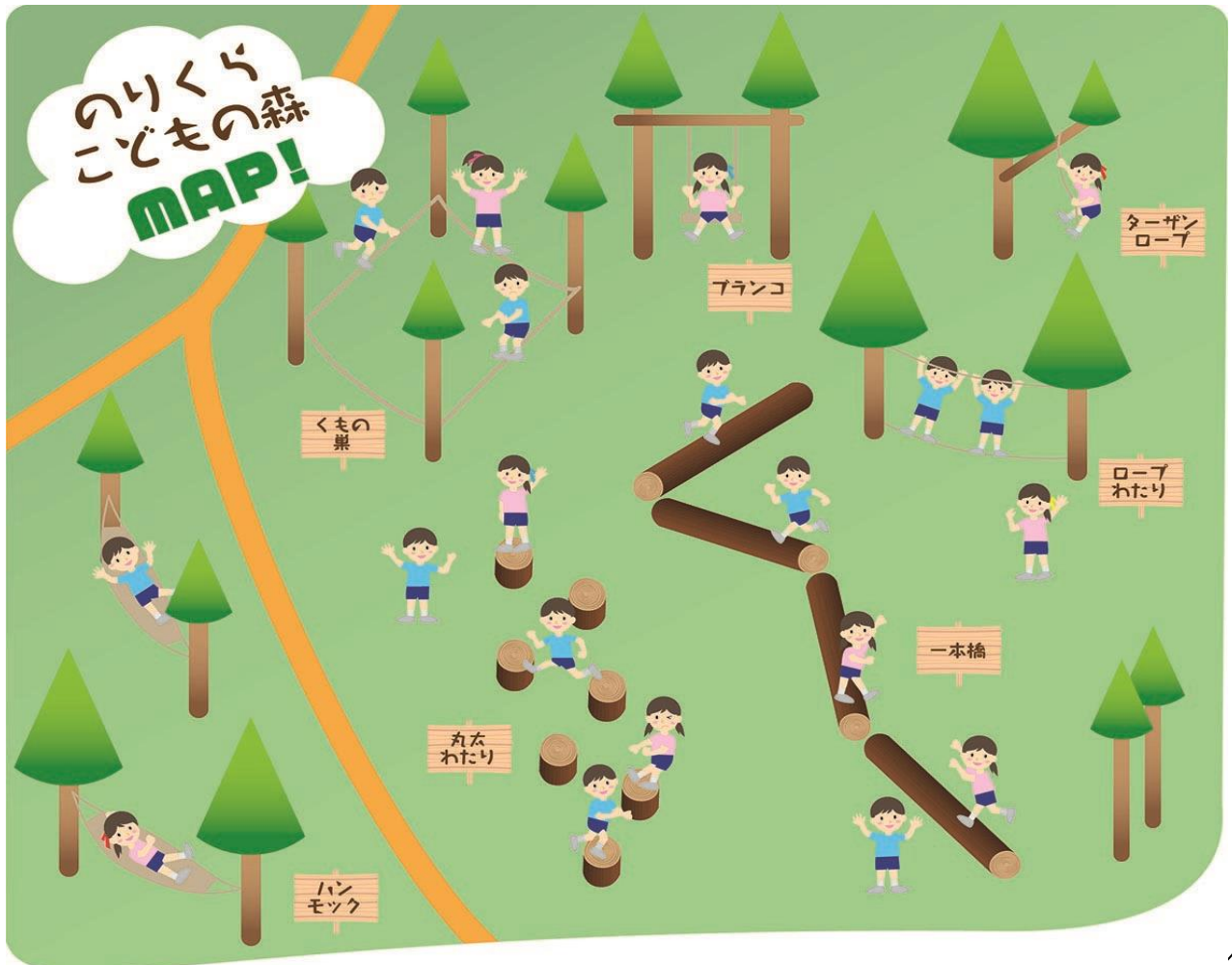
#### 【人的環境】

保育士・保護者・友達同士などの繋がり  
や温かい関わり、言葉掛けが作り出す空間  
が大事。自然を楽しみ、発言や行為に  
共感しながら子供を信じて見守る。

#### 【物的環境】

安全・安心が確保され、こども  
自らが遊びたくなる空間。昆虫  
などの生き物、豊かな色彩をも  
つ植物、樹木や落ち葉など発見  
は様々。

#### 【こどもの森マップ \*しらかば営火場】



## 4. 調査結果・考察

### (1) 遊び場の設定

新設したこどもの森には、7つの遊具を設定した。それぞれの遊びから心理的・身体的特徴がみられた。



仲間との共同行為や仲間意識が強く表れる



身体の強い動きや四肢を巧みに使う技術が必要



地面から離れる不安と挑戦する気持ちが混在



一人では難しく、他者の力が必要で意識が高まる



浮遊感や身体の連動した操作性が必要



集中力としなやかな肢体コントロールが必要



高低差や瞬時の判断力、足を踏み出す勇気と不安

### (2) 遊び場の目的設定と子供たちに身に着けてほしい力

設定の目的は5つあり、遊びを通して子供たちに身に着けてほしい力を想定している（朱書下線部）

- ①豊かな自然環境を活かす → 豊かな感性や自分の興味関心に即して遊べる
- ②子供たちが直接扱うことのできるもの → 諸感覚を通して直接接触れる
- ③繰り返し扱うことのできるもの → 創意工夫をしながら失敗や成功を味わい夢中になれる
- ④操作性があるもの → 画一的な動きにとらわれることなく、多様な動きが創出
- ⑤仲間（複数）で楽しく遊べるもの → 仲間を意識すること、仲間と協力することなど

上記の、子供たちに身に着けてほしい力は、様々な遊びの中で表出していた。

約1時間、子供たちはこどもの森で遊ぶ。初めは、森の環境や7つの遊具の様子を見ながら慎重に行動している。徐々に興味ある遊具に「自分のできること」で関わり始める。

そこで、仲間の力が良い影響を与える。「こうすればいいよ」「できるよ」「こっちおもしろいよ」など遊びこめる子どもたちの発言や姿に、子供たちが相互に影響を受け、遊びが深まっていく。出来て嬉しい子供、出来なくて何回も挑戦する子供などさまざまである。一人ひとりが、夢中に遊んでいる。

その中で重要なのは“自分の好きな（興味関心のある）遊び”ということである。自分で選び、関わり、考え・工夫して遊びを深めていく。揺るがない自分が存在している。こどもの森は、このような過程を十二分に発揮できる場であると考えられる。

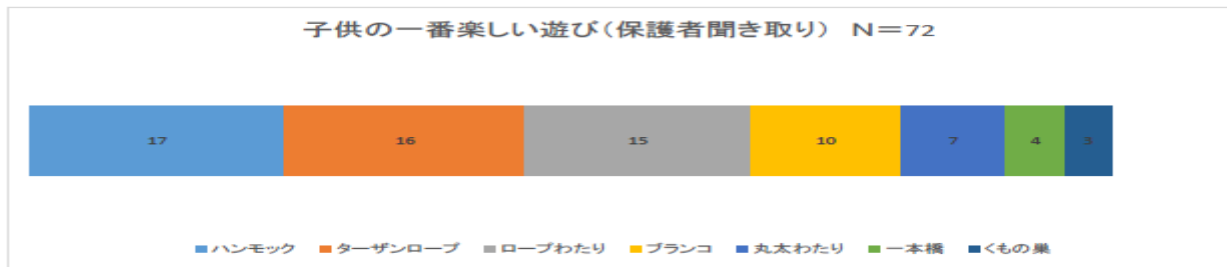


## 5. 成果・課題

### (1) 成果

#### ①7つの遊具の優位性について（子供たちにとって楽しい遊具）

親子活動後、保護者からご自身の子供に「一番楽しかった遊び」について聞いてもらった。

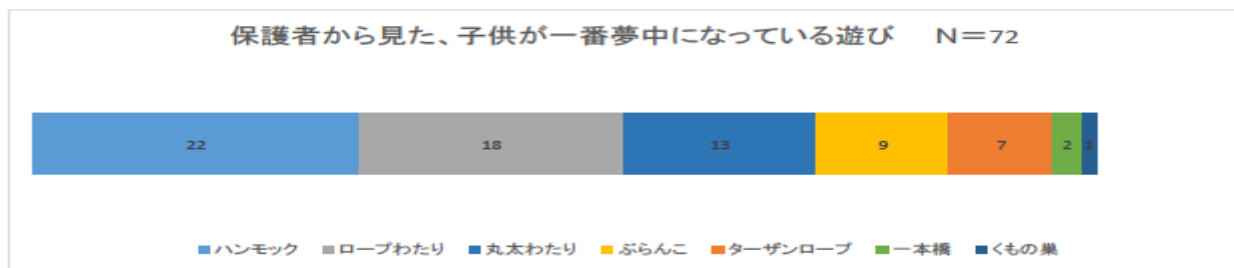


ハンモックが一番人気であった。仲間と共に横たわり、一緒に揺らす、一緒に包まるなど楽しさ以上に友達といっしょの行為がとても心地よかったと思われる。また、保護者に揺らしてもらいスリル感も十分に味わうことができた。暖かい日差しのもと森の中で、横たわる感覚は非日常的なことでもある。

園の先生に伺うと、園にはハンモックが設置されていない。ハンモックは、改めて友達と特別の空間を作ることにも影響を与えている。遊び遊具設定のヒントになるであろう。

#### ②7つの遊具の優位性について（保護者から見た遊び）

一方で、保護者から見て、子供が一番夢中になっていた遊びを選んでもらった。



保護者も同様に、ハンモックが一番夢中になっていると感じている。子供がハンモックに横たわり保護者がそれを押したりひっぱたり身近で操作する場面が多かったことも要因と思われる。喜び歓声を上げる子供が目の前にいるのだから当然かもしれない。また、第2位のロープわたりは、一人が乗ると次から次へと子供たちが列をなしてロープに群がってくる。体が傾いたり揺れたり複雑な動きを仲間と共に楽しめることが良いのであろう。

自然環境課での遊具について一つの見解を得ることができた。子供が夢中になる遊びは、仲間と一緒に群れて遊ぶこと。力加減で揺れたりする可動域があること。固定遊具のように遊びが限定されるものではなく、子供たちが創意工夫をしながら遊びを発展させ変化していく環境構成が必要であると感じた。

#### ③保育者が感じた、普段の園庭での遊びとの違い（活動後3園より22名の保育士にインタビュー）

- ・自然の中で遊ぶ子供たちの、発想力の豊かさに改めて気づかされた。（19名/22名）
- ・自然の中の遊具で、どう遊ぶかを自分たちで工夫する姿が見られた。（18/22名）
- ・何よりも自然の中は開放的で、園庭より元気に歓声を上げながらよく走っていた。（15/22名）

### (2) 課題

- ・今年度はこどもの森1年目であり、交流の家の職員による指導や助言を全面的に行った。今後は、園独自で実施できるように運営のポイントや安全面の情報提供など積極的にしていく。
- ・園や子供たちの実情に合わせた環境設定ができるよう、保育者や子供たちの声を反映する必要がある。